

ExFact VR 2.1 リリースノート (2017年5月)



この文書では、ExFact VR の新バージョン 2.1 について、ご説明致します。

1. ExFact VR 2.1 の動作環境は以下の通りです。

- ・マルチプロセッサ/マルチコアの CPU 環境をサポート
- ・CPU は AVX 命令セットに対応した Intel の Sandy Bridge (第二世代 Core プロセッサ)以降を推奨。おおむね 2011 年以降発売の PC 殆どに対応。Core i3/5/7 プロセッサだとモデル 2xxx 以降、Xeon プロセッサだと E3/5/7 系以降がこれに相当します。
- ・これ以前の古い CPU を搭載した PC 向けのインストーラにつきましては、お問い合わせ下さい。
- ・2017 年に発売された AMD の新 CPU Ryzen でも良好な動作を確認しております。
- ・NVIDIA GeForce, Quadro, AMD Radeon シリーズなど、独立した GPU とビデオメモリを持つ 3D や OpenGL 性能を重視したビデオカードが必須
- ・この理由から、ノート PC での動作は可能ですが、性能が要求されます。また、Intel Graphics などオンボードのビデオカードでの使用は良好に動作しない場合が多く、推奨されません。
- ・Windows Vista, 7, 8, 8.1, 10 の各 Edition, 64bit 版に対応。32bit 環境は非対応です。
- ・データの総容量の数倍のメモリ搭載を推奨。メモリ 8GB 必須, 32GB 以上を推奨
- ・高解像度のモニタが必須。フル HD (1920×1800pixels)以上を推奨。マルチモニタにも対応
- ・QuickTime 7 がインストールされている環境下では、QuickTime ムービーが出力されます。有償の QuickTime Pro でも動作致します。
- ・USB 2.0/3.0 ポート (プロテクトモジュール接続用)
- ・SSD を RAID0 (ストライピング)で搭載したり、NVMe, PCIe のような高速なバスで接続するような PC 仕様は、高速化のために極めて有効です。ExFact VR 2.1 はレポートを作る際に大量に一時ファイルを作成致します。そのフォルダは画面右側「パネル→パス設定→一時フォルダ...」で設定します。このフォルダ内は定期的に削除するようにして下さい。

2. インストールの手順は以下の通りです。

- (1) 既に古いバージョンがインストールされている場合、削除します。
コントロールパネル→プログラムと機能から、「ExFactVR20_win64」を選んで削除します。
- (2) インストーラを実行して進めます。ExFact VR 2.1 本体のインストールはこれで完了です。

※ なお、ExFact VR の旧バージョン 2.0 と新バージョン 2.1 は、両方をインストールして、特に問題無く共存して、ご使用頂くことができます。

※ 画面右側「パネル→設定(Preferences)」以下の設定は、それぞれのバージョンで個別に設定内容を保存します。このため、言語やロゴ画像、パス等の設定は、新バージョン 2.1 において、やり直す必要があります。

